

常盤台一・二丁目町会マンスリー

2022年11月号 No.35 Facebook: 常盤台一二丁目町会

TEL/FAX: 03-3969-8121 会長 岩崎 忠雄

防犯夜間パトロール 2ヶ月ぶりに再開

コロナ禍により7月より休んでいた夜間パトロールを2ヶ月振りに再開。町内の安全はもちろん、約30分強で町内を廻るパトロールはほど良い運動です。防犯、健康のためにも是非ご参加ください。日程は回覧版でお知らせしています。心よりお待ちしております。

かずさ DNA 研究所 見学

町会連合会・常盤台支部日帰り研修で、千葉県木更津市にある「公益財団法人かずさDNA研究所」を見学。親睦と思いきや視察目的の極めて真面目な研修。千葉県の支援で94年にDNA研究を専門に行う世界初の研究所として開所、研究を積み重ねている。

DNAは生物の細胞に格納されている生物の設計図。品種改良による食料の増産、難病の克服など医療、汚染解決など環境、能力開発など教育の分野で活用されている。持続可能な世界実現にさらなる貢献が期待されている。

一方、遺伝子組み換え、クローン人間など倫理的問題もはらんでいるという。

人間一人は40兆個の細胞からなり各細胞には2メートルのDNAが格納されている。

一人のDNA設計図は80兆メートルにも及ぶ。気の遠くなるような話だ。但しデータ量としては8GBで今日のITで扱える量だ。(裏面に続く)

洗剤で細胞を破壊し DNA を取り出す実験も実習した。

若返り、アンチエイジングの成果について質問した。すると関連でNMN サプリというのがあるという。但し効果について科学的、医学的な検証は無いらしい。あくまでサプリだ。帰ってネットで調べてみると大手食品メーカーなどからそう高価でもなく販売されている。ピンキリだが。若返りというのは人間の欲望のようだが、一方で「程々のところでピリオドを打った方が幸せじゃないか」とIさんは言う。確かにそうだろう。

当日は説明に当たった研究員の方が、板橋区生まれと知りうれしくなった。DNA 理解を深めると共に千葉パワーと板橋パワーを感じた一日だった。(K.N.)

「いたばし町連」
第300号で紹介された
ときわ台駅舎のコラム

常盤台

「ときわ台駅舎について」

広く常盤台エリアのシンボルとして愛される東上線ときわ台駅舎。「出没！アド街ック天国」(テレビ東京、令和4年1月29日)でも紹介されました。

ときわ台駅はもともと武蔵常盤駅として昭和10年に開業しました。欧米の田園都市に精通した内務省の設計をえて、東武鉄道が常盤台住宅地の分譲を開始したのはその翌年です。

駅舎は、大谷石と青瓦の宝形屋根を特徴として



武蔵常盤駅舎 (1957)



駅前ロータリー (1952)

います。フランク・ロイド・ライトが旧帝国ホテルの設計で用いており、その系譜にあるともいわれます(「常盤台住宅地物語」中湖康太著、GCS出版)。大谷石は宇都宮が産地で、昭和7年開業の東武宇都宮線・南宇

都宮駅舎にそっくりです。当の東武は「その理由はわからない」、「兄弟駅・姉妹駅としてはいい」とのことです。ときわ台駅舎は、平成30年5月30日に、伝統の姿でリニューアルオープンしました。東武鉄道社員の方が、OBから渡された昭和25年のアルバムを、ときわ台駅管内の常盤台一・二丁目町会へ寄贈してくれました。武蔵常盤駅とよばれた当時の姿です。今も昔も、エレガントな駅舎、広々とした駅前ロータリーは常盤台のシンボルです。

常盤台支部長 大室隆史